

Q. 芭蕉布の原料

糸芭蕉はバナナの仲間ってホント？



A. 本当◎

食用バナナなる実芭蕉の葉や偽茎は、糸芭蕉のものと同く。糸芭蕉にもバナナのような実はありますが、大きな種がたくさんあり食べづらそう。また同じバショウ科に属する、花(姫)芭蕉という観賞用植物もあります。



糸芭蕉

(リュウキュウバショウ)

Musa balbisiana var. liukuensis

バショウ科バショウ属。一見すると木に見えるが草に分類される。幹のように見える部分は葉鞘と呼ばれる葉の付け根(基部)が巻き重なった偽茎(断面写真→P6)。一度実をつけると、じきに枯れる。食用バナナに似た果実がつくものの、種子がぎっしり詰まっているため食用には向かない。株を増やしたい場合は種子から育てることもできる。もともと、土中の根茎より生える芽から株分けする方法が一般的である。繊維がとれるようになるまでに約3年かかる。

偽茎

Q. 芭蕉布は船乗りだった？

A. 福建省から貿易船で渡来したという説も！

琉球列島と福建省(略地図)



15～16世紀、芭蕉布づくりがスタート!?

古くから琉球列島の人々は苧麻などでできた服を着用していたようです。芭蕉布の起源については諸説ありますが、那覇港近くの久米村という集落に居住した貿易商人が持ち込んだのではという見解も。15～16世紀初頭頃、中国・福建から来たいわゆる“閩人”が、芭蕉布の原料である糸芭蕉や、織って布にする技術を琉球の人に伝えた可能性があります。

琉球王朝から徳川家康にもプレゼント！

芭蕉布文化は徐々に琉球王国全土に広まりました。17世紀初頭、薩摩藩の琉球侵攻後には、薩摩への貢納布に指定されます。琉球国王・尚寧が江戸幕府へ謁見する道中、駿府(現在の静岡県静岡市)で徳川家康に面会した際に芭蕉布50反を贈ったという記録も残っています。



(画像提供 那覇市歴史博物館)
那覇及久米村図/明治初年頃に撮影された写真資料